

人権学習パンフレット『違いを豊かさに』

このパンフレットは、保護者や、子どもにかかわる地域の方々を対象として、人権についての認識を深めることを目的に作成した学習教材第2作です。

私たちは、ものの見方や考え方、習慣、経験、立場など、さまざまな違いの中で生活しています。そして、時として、同じものの見方や考え方をしている人の中に、違った考え方をする人が入ってきた場合、その人を排除しようとすることがあります。一人一人の人権が尊重されるより良い社会の実現のためには、多様性のある社会を受容し、さまざまな違いを認め合い、互いが豊かな人間関係を築いていくことが大切です。

この教材は、学習会の参加者が対話等を通じて互いに学び合うことが大切であることから、参加体験型学習を中心に作成しています。単に読み物資料としての活用に止めることなく、ファシリテーター（進行役）を中心に、日常生活の中のエピソードなどをもとに考え、互いの意見を出し合い、主体的な学びを深められることを期待しています。

保護者学級や保護者会、PTAの人権研修会、地域における人権研修会や地区別懇談会等で御活用ください。

パンフレットの活用にあたって

以下にワークシートの展開例を掲載していますので、参考にしてください。

○1頁の「家族やグループで」から2頁への展開例

時間	活 動	留 意 点
10分	<p>準備（アイスブレイキングからグループづくりをする。）</p> <p>「自己紹介ゲーム」</p> <p>○A4紙を4つ折りにし、4面に、①好きな色②好きな食べ物③嫌いな色④嫌いな食べ物のそれぞれを記入し、参加者全員で、時間内（3分間）にできるだけ多くの人と自己紹介し合う。</p> <p>○何人の人と出会えたか、その中で考え方が自分と同じだった人、また違った人と出会った時、どう感じたかなどを話し合う。</p>	<p>○ワークショップを行う際に必ず必要とされる「ルール」を確認しておきましょう。（「参加・尊重・守秘」と板書しておくとい良いでしょう。）</p> <p>※「参加」は、基本的には、活動の全てに一人一人が参加することを意味していますが、時には、“パスする”こともOKであることを伝えておきましょう。また、「守秘」については、本音で意見を出し合うことができるよう、学習の場では出された意見は、決して外へ持ち出さないよう、約束し合いましょう。</p> <p>○アイスブレイキングの意義についても説明を加えながら進めましょう。</p> <p>※このパンフレットは、「多様性」をテーマとしているため、この「自己紹介ゲーム」</p>

		<p>を導入することで、後のアクティビティへ効果的につなげることができるでしょう。</p> <p>○ゲームを通じてグループ分けをするなど、できるだけ、知らない人同士のグループ(4～6人)となるように心がけましょう。</p>
15分	<p>○「気づいた違い」について話し合う。</p> <p>○その違いがあるために、「いやな経験をしたことやうれしい経験をしたこと」を出し合う。</p> <p>○2頁の「気づかないままに・・・」を読んで話し合う。</p>	<p>○グループの中で、「お互いの間にこんな違いがあるよ」ということを出し合ってもらいましょう。</p> <p>*例えば、「背が高い・低い」「太っている・痩せている」など、気がつく範囲内で出し合う。</p> <p>(話しやすい雰囲気をつくるために、ファシリテーター(進行役)が、最初に、1例を挙げて、話し合ってもらおうのもよいでしょう。)</p> <p>○出された意見を板書するなどしながら、2頁につなげましょう。</p> <p>○1頁で出された意見(板書など)を自分たちの生活をふり返るきっかけとするよう助言しましょう。</p>

○3頁の「話の続きをつくってみましょう」から4頁の「うわさの階段」へつなぐ展開例

時間	活動	指導のポイント
3分	○話の続きをつくる。	○ファシリテーターが、話を読んだ後、一人一人にその話の続きをつくるように指示しましょう。
5分	○グループで、それぞれつくった話がみんな同じになったか、また、違いがあったとしたら、それはなぜかを考える。	○グループの中で、必ず意見交換をしながら出し合ってもらうようにしましょう。
5分	○私たちの考え方や発想は何に	○自分の考え方が、他の人と違っていたのは、

	影響されているか考える。	何に影響されていると思うか考えてもらいましょう。
7分	○考え方や発想に影響しているものを全体で発表する。 (各グループの代表)	○共有し合えるように、出された意見を板書しましょう。 (予想される発表) ・生活体験・経験（実体験）・固定観念・ニュースなどのマスメディア・その時々 の体調や気分等
5分	○4ページの「 うわさのはじまり 」を読む。	○前頁の話し合いの際に、板書したことを手がかりにしながら、ファシリテーターが読んでまとめましょう。
7分	○「 うわさの階段 」を読み、これまでの自分の経験の中で、階段をのぼるきっかけとなるようなことがなかったか、話し合う。	○「うわさ」の時点で、一人一人がしっかりと考え、行動しなければならないことを確認しましょう。

○5ページの「それは“**事実**”？それはあなたの“**考え**”？」の展開例

5分	○話を読む。	○できるだけ、ファシリテーターが読むようにしましょう。
15分	○「考えてみましょう」の4つの設問を各自で考え、グループで話し合う。 ◆B子の日頃の様子はどうでしたか。 ◆A子は母から、B子についてどんなことを聞いていましたか。 ◆それらのことから、A子はB子についてどう思いましたか。	○ワークを始める前に、必ず、話の中に書かれていることをもとにそれぞれの設問について考えていくよう、確認しておきましょう。

	◆ A子から話を聞いたC子は、 どうしましたか。	
8分	○ 5頁下のコラムを読む。 ○ この話の中で、“考え”にあ たる部分はどれか話し合う。	○ 日常生活の中から得る情報（人から聞いた ことやテレビやインターネット等で知り得 たこと）については、じっくり立ち止まっ て考える必要があることを確認しましょ う。

○ 6頁の「**偏見・差別をなくすために・・・**」からまとめへつなぐ展開例

時間	活 動	指 導 の ポ イ ン ト
15分	○ 5頁のA子の“考え”につい て話し合う。 ◆ なぜ、A子は、B子が「その 学校でいじめられていた」と いう言葉を使ったかを考える。 ○ もう一度、4頁の「うわさの 階段」の図を見て確認する。	○ C子についても、B子の話したことをその まま鵜呑みにしてしまっていることを同時 に確認しましょう。 ○ お互いに深く傷つく前に「うわさのはじま り」や「うわさの階段」について、きちん と知る事の大切さを再度、確認しましょ う。
20分	○ 今までそういった経験がない か、話し合う。 ○ 今後、差別や偏見にかかわる トラブルに遭遇したとき、ど うすればよいのかを考える。	○ お互いの経験を出し合う中で、今回の学習 を深めましょう。 ○ 学習のまとめとして、 個人にできる「5つ のヒント」 を読みながら考えてもらいまし ょう。 ※ファシリテーターが、学習者に問いかけ ながら確認していく方法も良いでしょ う。